

平成27年度資産運用状況について

建設業退職金共済事業等勘定 特別給付経理

資産運用に当たっては、中小企業退職金共済法及び関係省令・告示並びに[運用の基本方針](#)に則り実施いたしました。建退共制度の安定的な運営及び健全性の向上に必要な運用収益を確保するため、最適な資産の組み合わせである[基本ポートフォリオ](#)に沿った資産配分を行い運用を実施いたしました。また、本経理では資産運用委員会の議を経て、平成28年3月に基本ポートフォリオの変更を行い、同年3月から5資産（国内債券・国内株式・外国債券・外国株式・短期資産）を4資産（国内債券・国内株式・外国債券・外国株式）に減じました。

平成27年度の資産運用は、自家運用では安定した収益を確保しました。委託運用では中国市場の混乱や原油価格の下落を契機に、世界経済の先行き不透明感が台頭し、内外株式市場が下落したため、内外株式の収益が大幅なマイナスとなりましたが、国内債券の収益がプラスとなり収益を確保しました。

平成27年度末の運用資産残高は335億75百万円となり、当期の運用収益は4億58百万円（運用収入が4億63百万円、うち金銭信託評価益は2億87百万円、運用費用が5百万円）、決算運用利回りは1.36%となりました。

なお、前年度に対して金銭信託の収益が10億円減少したこと等により、当期総損失は2億6百万円を計上し、利益剰余金は149億86百万円となりました。

資産運用の内訳としては、[自家運用](#)は期末運用資産残高162億34百万円、運用収益1億46百万円、決算運用利回りは0.91%となりました。

[委託運用](#)は期末運用資産残高173億41百万円、運用収益3億12百万円（費用控除後）、決算運用利回りは1.75%となりました。

委託運用のうち金銭信託に係るパフォーマンスは、資産別では国内債券・国内株式・外国債券が[ベンチマーク](#)を上回り、外国株式はベンチマークを下回りましたが、全体ではベンチマークに対する超過収益率が0.49%となりました。

資産運用状況

➤平成27年度の資産運用状況は、下表のとおりです。

(単位:百万円)

運用の方法等		資産額	構成比	運用収入 ①	運用費用 ②	運用収益 ①-②	決算運用 利回り	
自 家 運 用	有 価 証 券	国債	1,619	4.82%	6	-	6	0.38%
		政府保証債	10,385	30.93%	134	-	134	1.22%
		金融債	2,700	8.04%	5	-	5	0.21%
		計	14,704	43.80%	146	-	146	0.97%
	預 金	短期運用	1,100	3.28%	0	-	0	0.09%
		普通預金	430	1.28%	-	-	-	-
		計	1,530	4.56%	0	-	0	0.04%
計		16,234 <16,020>	48.35%	146	-	146	0.91%	
委 託 運 用	金銭信託	14,898	44.37%	287	-	287	1.87%	
	生命保険資産	2,443	7.28%	29	5	25	1.00%	
	計	17,341 <17,780>	51.65%	317	5	312	1.75%	
合計		33,575 <33,800>	100.00%	463	5	458	1.36%	

- (注) 1. 資産額の<>内の金額は、平均残高である。
 2. 決算運用利回りは、運用収益を平均残高で除した数値である。
 3. 短期運用は譲渡性預金である。
 4. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

運用収益及び決算運用利回りの推移

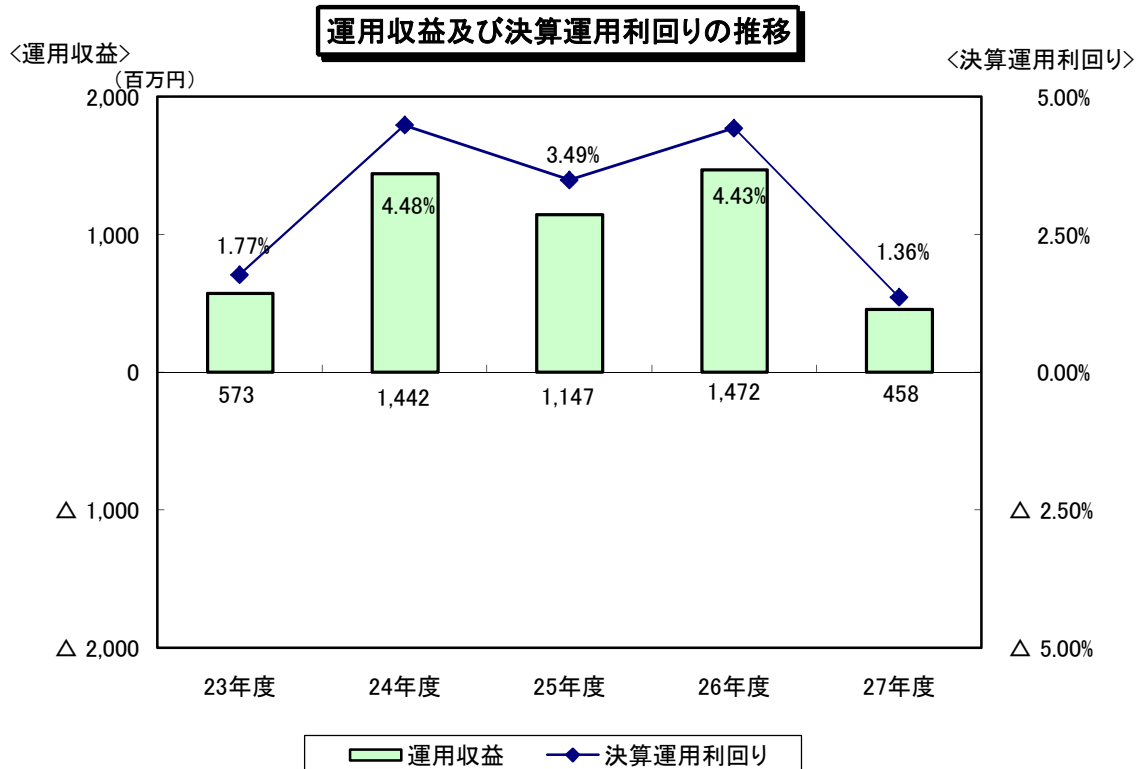
➤過去5年間の運用収益及び決算運用利回りの推移は下表のとおりです。

(単位:百万円)

運用の方法等		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
自家運用	有価証券	237	228	220	181	146
	預金	1	1	0	1	0
	計	238	229	221	182	146
委託運用	金銭信託	305	1,180	891	1,257	287
	生命保険資産	27	33	35	34	25
	有価証券信託	3	0	-	-	-
	計	336	1,214	926	1,291	312
運用収益の合計		573	1,442	1,147	1,472	458

決算運用利回り	1.77%	4.48%	3.49%	4.43%	1.36%
---------	-------	-------	-------	-------	-------

- (注) 1. 運用収益は費用控除後の額である。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。



自家運用資産の構成状況

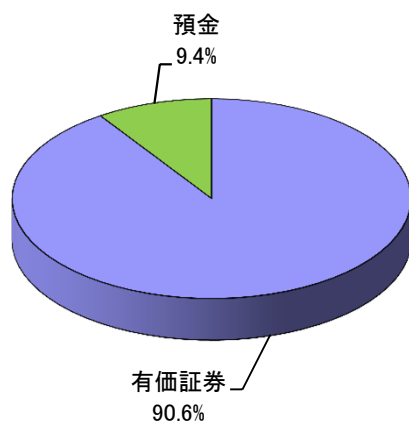
➤ 自家運用は、元本の償還や利払いが確実な政府保証債を中心に運用し、平成27年度末の資産額は162億円で、政府保証債の割合は64.0%となっています。

(単位:百万円)

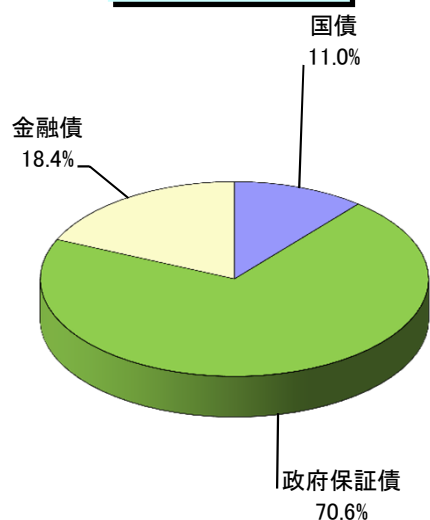
運用の方法等			資産額	構成比	有価証券構成比
自家運用	有価証券				
				国債	1,619
		政府保証債	10,385	64.0%	70.6%
		金融債	2,700	16.6%	18.4%
		計	14,704	90.6%	100.0%
	預金	短期運用	1,100	6.8%	/
		普通預金	430	2.6%	
		計	1,530	9.4%	
	合計		16,234	100.0%	

- (注) 1. 短期運用は譲渡性預金である。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

自家運用構成比



有価証券構成比



委託運用資産の構成状況

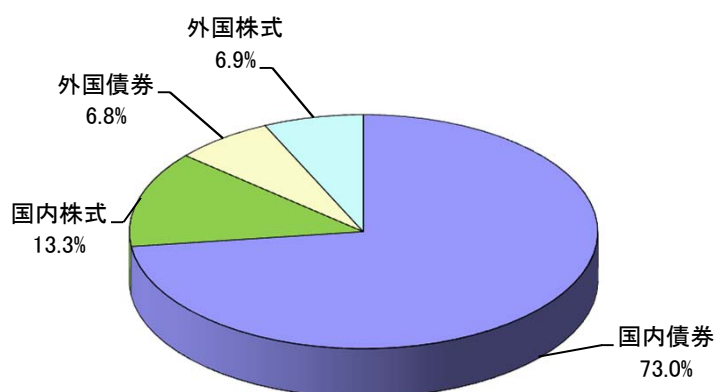
➤平成27年度末の委託運用のうち、金銭信託は、銀行(1社)及び投資顧問会社(1社)に、生命保険資産は、生命保険会社(4社)に運用を委託し、資産額は173億円となっています。

(単位:百万円)

運用の方法等		資産額	金銭信託 構成比	
委託 運用	金 銭 信 託	国内債券	10,872	73.0%
		国内株式	1,980	13.3%
		外国債券	1,018	6.8%
		外国株式	1,028	6.9%
	計	14,898	100.0%	
	生命保険資産	2,443		
合計		17,341		

(注) 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

金銭信託構成比



金銭信託の収益率

>平成27年度は、委託運用資産のうち金銭信託の**時間加重収益率**は、
 資産別にみると国内債券・国内株式・外国債券が**ベンチマーク**を上回り、
 外国株式はベンチマークを下回りました。
 また、時間加重収益率の資産合計は2.16%となり、全体ではベンチマーク
 に対する超過収益率は0.49%となりました。

資産区分		時間加重収益率	ベンチマーク	超過収益率
金 銭 信 託	国内債券	5.67%	5.40%	0.26%
	国内株式	△6.60%	△10.82%	4.22%
	外国債券	△2.72%	△2.74%	0.02%
	外国株式	△11.31%	△8.64%	△2.66%
	短期資産	△0.05%	0.03%	△0.08%
	合計	2.16%	1.68%	0.49%

(注) 1. 短期資産の時間加重収益率とベンチマークは2月までの収益率である。
 2. ベンチマークの合計欄は、構成比による加重平均である。

【時間加重収益率】

・キャッシュフローが発生するごとに期間(時間)を区切り、各期間ごとに収益率を計算し、最後に
 複数の期間ごとの収益率を掛け合わせる(加重)ことで求めた時価ベースの収益率である。

【ベンチマーク】

・運用成果を測るための基準となるもの。運用機関がどれだけの収益率をあげたかという絶対的な
 判断ではなく、市場に対してどうであったかという相対的な判断(ベンチマーク評価)をするときの
 基準値となる。

国内債券: [NOMURAボンド・パフォーマンス・インデックス\(総合\)](#)

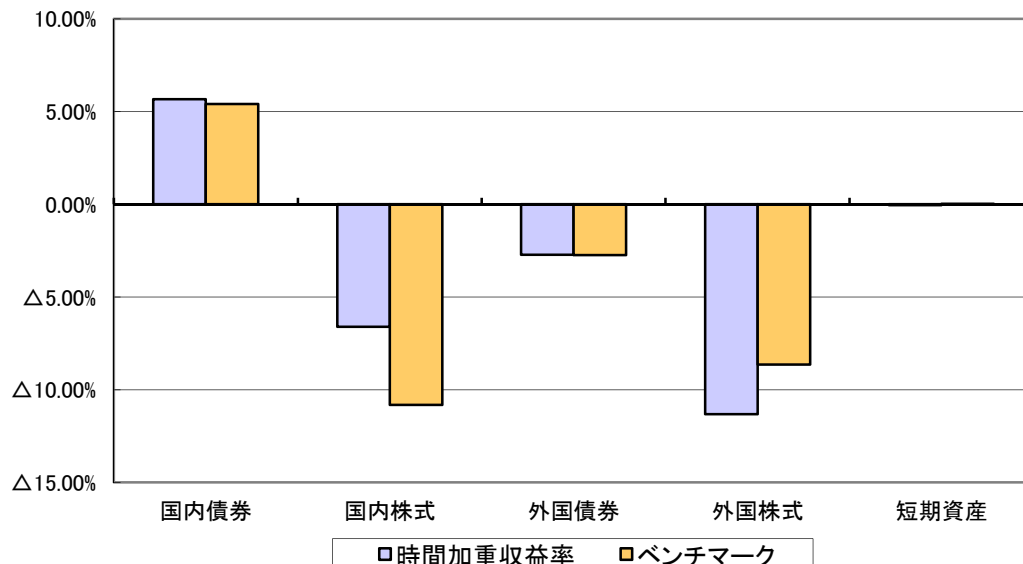
国内株式: [TOPIX\(配当込み\)](#)

外国債券: [シティ世界国債インデックス\(日本を除く、円換算\)](#)

外国株式: [MSCI\(KOKUSAI、円換算・配当再投資・GROSS\)](#)

短期資産: [コールレート\(翌日もの、有担保、月中平均\)](#)

金銭信託の収益率



運用資産の構成状況

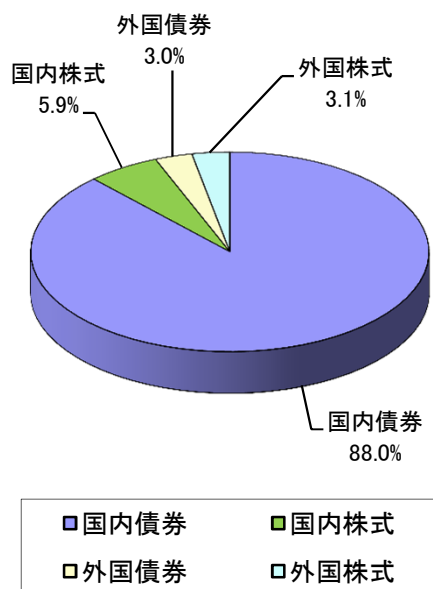
➤平成27年度末の資産構成状況は、[基本ポートフォリオ](#)に定める資産配分に対する[乖離許容幅](#)の範囲内を維持しました。

(単位:百万円)

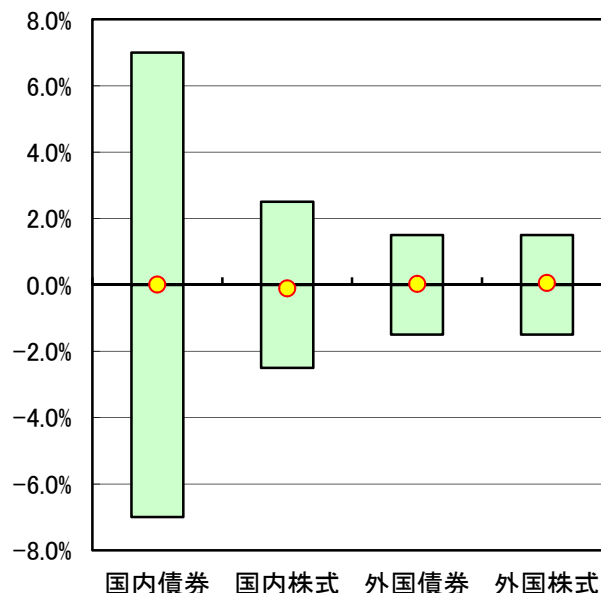
資産区分	基本ポートフォリオ	乖離許容幅	資産額	資産構成比	乖離状況
国内債券	88.0%	±7.0%	29,548	88.0%	0.0%
国内株式	6.0%	±2.5%	1,980	5.9%	△ 0.1%
外国債券	3.0%	±1.5%	1,018	3.0%	0.0%
外国株式	3.0%	±1.5%	1,028	3.1%	0.1%
合計	100.0%	—	33,575	100.0%	—

- (注) 1. 国内債券には、預金及び生命保険資産が含まれている。
2. 単位未満は四捨五入しているため、内訳と計が一致しないことがある。

資産構成比



基本ポートフォリオ乖離状況



□ 乖離許容幅 ● 乖離状況